

第44回大会テーマ・セッション報告

セッション・コーディネーター 徳野 貞雄

『有機農業運動の可能性と課題----農村の再生・都市との連携』

- 報告者
- (1) 保田 茂氏 (神戸大学)
 - (2) 青木 辰司氏 (秋田県立農業短大)
 - (3) 宇根 豊氏 (福岡農業改良普及センター)
 - (4) 中島 紀一氏 (鯉淵学園)
 - (5) 星 寛治氏 (高畠町農家)

4月27日の理事会において、第44回大会のテーマ・セッションのテーマと報告者が、上記のように承認されました。

テーマに関しては、環境保全型農業というタームも存在するが、環境保全型農業は行政用語であり、有機農業運動等が、行政が押し進めてきた近代農政・農法に対する批判として農民や消費者の主体的運動の中から生れてきた限り、有機農業運動を軸にテーマを設定した。

また、有機農業ではなく有機農業運動としたのは、有機農業とすると農法的規定が強すぎ、有機農産物以外の産直活動やグリーンストック運動など包摶しきれないのでないかと考え、「運動」を入れることによって、農法的規定性を弱め社会的方向性を強めることにした。

次に、可能性と課題は、単なる歴史的な事例分析ではなく、現状分析を踏まえた上で、農業・農村のあり方の可能性の検討も包含することにした。

最後に、村研で有機農業運動をテーマにする限り、(1) 有機農業運動等を担ってきた人々がどのような社会的性格を有するのか、(2) 「ムラ」は有機農業運動等に対して、どのような役割を果してきたか等は、是非セッションの中で明らかにしたいと考え

ている。

報告者の①保田茂氏（神戸大学農学部）は、長年有機農業運動に研究者として実践的かつ学問的に関わってきた方であり、有機農業運動の歴史的経過の総括をお願いしたい。

②青木辰司氏（秋田県立農短）は、村研会員として、高畠町などの有機農業運動の研究にたずさわっておられ、東日本をベースとした報告をお願いしたい。

③宇根豊氏（福岡農業改良普及センター）は、農業改良普及員として長年「減農薬運動」の実践的リーダーであると同時に、「農民と自然」に関する立場から報告をお願いしたい。

④中島紀一氏（鯉淵学園）は、有機農業運動のもう一つの軸である産直や提携活動等の流通問題や消費者運動との関連をベースに報告をお願いしたい。

⑤星寛治氏（高畠町農家）は著名な有機農業実践者であり、実践者の立場から本セッションの報告をお願いしたい。

最後、今回は村研ということもあり、農村側にウェートを置いたセッションとして展開していきたいと考えている。なお、各報告の前に、コーディネーターが、本セッションの位置付け等の解題を行う予定である。